

総括（在宅医療・福祉コンソーシアム長崎専任教育職員）

長崎大学医学部保健学科看護学専攻助教

松山 しのぶ

「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」を立ちあげ、約4年が経過した。今年も「在宅チーム医療早期体験学習」、「地域包括ケア早期体験学習」、「在宅がん医療・緩和ケア実習」では、多くの学生が参加し、他学部の学生との実習の中で自己の専門性を高めることとともに他の専門職種への理解や協働していくことの重要性を感じたようである。

また、本年度は、13科目に加え、反転授業を考慮したWeb配信用動画ビデオ作製を行った。Web配信用動画ビデオの導入による教育効果の向上を期待するとともに、現在提供している科目を整理し、本事業終了後も継続性のある科目となるよう取り組んでいきたい。

長崎大学歯学部助教

介田 圭

平成24年度 大学間連携 共同教育推進事業「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」を推進するため「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」が組織され、4年が経過した。本年度は、文部科学省が実施した「大学間連携 共同教育推進事業」中間評価において本事業は「当初計画を超えた優れた取り組みである」として、5段階評価の最上位にあたるS評価に、地域連携分野で採択された25取組の中で唯一選ばれ、特別企画シンポジウムの開催もなされた。本年度は、実習科目や演習科目の質的評価を充実させることが出来た。来年度は、講義・演習・実習の内容の充実に努めていきたい。

長崎大学薬学部薬学科准教授

手嶋 無限

本年度、文部科学省による「大学間連携 共同教育推進事業」中間評価において、地域連携分野で唯一のS評価を受けた在宅医療・福祉コンソーシアム長崎による「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」の事業は、いよいよ最終年度を迎えようとしています。主に学生を対象とした講義・演習・実習を展開している本事業ですが、今年度は新たにWEB講座が加わり、今後の学生教育の充実や地域への波及効果にも期待しているところです。これからもより地域に根差した取組として、本事業が継続・発展していけるよう、地域の多くの方々のご支援とご協力を賜りながら、専任教員として推進していく所存です。

長崎県立大学看護栄養学部看護学科特任准教授

吉原 律子

地域ケアや在宅医療を現場で学ぶ「実習」科目は、学生の関心も高く『多職種連携』を実感できる機会になっていました。また事例で学ぶ「特論」では、学生に療養者や家族を深く理解したいという意欲や他学部生の専門性に熱心に耳を傾ける姿勢が見られました。そして患者（療養者）支援に連携（協働）は不可欠であり、そのためにはまず自分自身のコミュニケーション能力と専門性を高めておく必要があると気づいた学生も多く、「コンソーシアム長崎」における連携教育は、学生、教員共に有意義であると感じました。

次年度は、履修と教育効果を再考し科目全体をブラッシュアップして開講する予定ですが、改めて、本事業の魅力を、学生はもとより大学内にも伝えていきたいと思えます。

長崎国際大学薬学部准教授

岩下 淳二

平成27年度に開講した学生参加型の早期体験学習や在宅がん医療・緩和ケア実習では、初めて目にする現場の専門職と、自信が目指す専門職以外の職種にも関心を寄せ、進んで学習する姿勢が見られた。在宅医療の現場や、地域包括支援センターの訪問を通じて患者さんや介護利用者の立場に立った生きた学習が展開できたものと評価している。平成28年度は当取り組みも最終年度となるため、今後引き続き開講する科目のブラッシュアップに努めていきたい。